

## 新産業創出・働き方改革調査特別委員会会議記録

新産業創出・働き方改革調査特別委員会委員長     ハクセル 美穂子

- 1 日時  
令和4年1月13日（木曜日）  
午前10時2分開会、午前11時35分散会
- 2 場所  
第4委員会室
- 3 出席委員  
ハクセル美穂子委員長、米内紘正副委員長、伊藤勢至委員、軽石義則委員、  
菅野ひろのり委員、城内よしひこ委員、高橋穂至委員、小野共委員、高橋但馬委員、  
工藤勝博委員、高田一郎委員
- 4 欠席委員  
上原康樹委員
- 5 事務局職員  
及川担当書記、菊池担当書記
- 6 説明のため出席した者  
なし
- 7 一般傍聴者  
なし
- 8 会議に付した事件
  - (1) 調査  
働き方改革×ICTについて
  - (2) その他  
次回の委員会運営について
- 9 議事の内容

○ハクセル美穂子委員長 ただいまから新産業創出・働き方改革調査特別委員会を開会いたします。

なお、上原康樹委員は欠席ですので、御了承願います。

これより本日の会議を開きます。

初めに、委員席の変更を行いたいと思います。

さきの委員長との互選に伴い、委員席を現在御着席のとおり変更いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○ハクセル美穂子委員長 御異議がないようですので、さよう決定いたしました。

本日は、お手元に配付いたしております日程のとおり、働き方改革×ICTについて調

査を行いたいと思います。

本日は、講師として岩館電気株式会社代表取締役社長、平野喜英様をお招きいたしておりますので、御紹介いたします。

○平野喜英参考人 皆さん、おはようございます。本日このような機会をいただきまして、ありがとうございます。岩館電気株式会社で代表取締役社長を務めております平野と申します。

講演中に自己紹介をするつもりでしたけれども、私、岩館電気に入ったのが約8年前なのですが、それまではずっとITの仕事をしておりました。外資系の期間が長くて、グローバルなところで仕事をさせていただいたということで、それを岩館電気に持ち込んで改革を進めた中身を皆さんにお伝えできればと思っております。

ちなみに、私、今日誕生日でございます。誕生日にこのような機会をいただいて、本当にうれしいと思っています。よろしく願いいたします。

○ハクセル美穂子委員長 よろしく願いします。ありがとうございます。

平野様の御略歴につきましては、お手元に配付している資料のとおりでございます。

本日は、働き方改革×ICTについてと題しまして、ICTを活用した働き方改革の取り組み等についてお話しいただくこととしております。

平野様におかれましては、御多忙のところ、このたびの御講演をお引き受けくださいます。ありがとうございます。改めまして感謝申し上げます。

これから講師のお話をいただくことといたしますが、後ほど平野様を交えての質疑、意見交換の時間を設けておりますので、御了承願いたいと思います。

それでは、平野様、よろしく願いいたします。

○平野喜英参考人 では、改めてよろしく願いいたします。本日、働き方改革×ICTについてということで講演させていただきます。皆様の参考になれば幸いです。よろしく願いします。着座にて失礼いたします。

最初に、岩館電気の御紹介をさせていただきます。テレビコマーシャル等で御存じの方も多と思いますけれども、業種としては電気工事業、建設業の一角を担っております。創業が1945年11月ということで、戦後すぐにつくられた会社でございます。創業者は私の祖父、平野正喜です。なぜ岩館なのに平野なのかとよく聞かれるのですが、旧姓は岩館で、平野家に婿入りしまして、そこでつくったのが岩館電気ということです。テレビコマーシャルを御存じの方も多と思いますけれども、電気工事業としては日本で初めてテレビコマーシャルをしたのが岩館電気だったということらしいです。

今回の講演のきっかけになったこととして、いわて働き方改革アワードを受賞させていただいたということがございます。選出していただいて、本当にありがとうございました。いわて働き方改革アワードについては、現在674社が岩手県の中で参加されているということですが、株式会社佐々木組が最優秀賞を受賞されまして、弊社は優秀賞を受賞させていただきました。やはり建設業は、どうしても長時間労働が課題になっているのですが、

それをさまざまな形で解決というか、取り組んだということが評価された形になっております。

また、今日はICTのお話中心になっているのですが、働き方改革ということで、組織を横断した取り組みや、女性幹部の採用ということもやっております、そこも受賞の対象であったということです。

弊社は公共工事が多いので、岩手県に対する取り組みを積極的に行っております。いわて産業人材奨学金返還支援制度の登録や、いわて子育てに優しい企業等の認証、いわて女性活躍認定企業等の認定を受けております。

また、優秀建設施工者岩手県知事表彰もいただいております。御推薦いただいた方もいらっしゃると思いますので、この場を借りて御礼いたします。そして、国から旭日双光章、瑞宝単光章ということで、2021年秋の褒章を2人同時に受章させていただきました。勲章を頂くことは多いかと思うのですが、一つの会社から2人同時に受章というのはなかなかないので、大変名誉なことだと思っております。本当にありがとうございました。

自己紹介ですが、先ほど簡単に申し上げましたが、ずっとITの仕事をしていました。大学在学中に1年間大学を休学してインターネットプロバイダーの立ち上げに参画したり、大学卒業後にカナダに渡航し、英語を勉強して、帰国後にITベンチャー企業の勤務を経由してSAPジャパン株式会社に入社しました。SAPは、あまり一般的には知られていませんが、実は世界3大ソフトウェア企業の一つでございます。マイクロソフト、オラクル、SAPです。今ではグーグルのようなインターネット企業のほうが大きくなってしまいましたが、私が入社したときはそういう位置づけでございましたし、いまだにビジネスアプリケーションでは世界で一番大きい会社ということになっております。

グローバル企業ですので、非常によかったのがグローバル部門で仕事をしましたこと。日々の仕事は英語でしたし、仕事をするのも上司がシンガポール人、日本にはチームメンバーが何人かいましたが、チームリーダーがオーストラリア人だったり、シンガポールやドイツへの出張がありました。SAPの本社はドイツで、ヨーロッパで一番大きい企業ということで、大変恵まれた環境で仕事をさせていただいたと思っております。

父の圧力に負けて、2013年10月に岩館電気に入社し、2019年7月1日に3代目社長になってしまいました。入社6年で社長にならなくてはいけなくて、朝から晩まで頑張って修行させていただきました。

働き方改革について、先ほど申し上げましたが、長時間労働が課題の業界です。というのも製造業と違ってラインがないのです。一つ一つ手作りというところですので、一つ改善すると全体に波及するというのを見つげづらい業界だと思います。

それでもやらなくてはいけないだろうということで、働き方改革チームをつくり、定期的なミーティングで、改善点の洗い出しを約1年間実施しました。ここにあるように、営業や事務、工務は、部門毎の取り組みですが、部門を横断したダイバーシティ、多様性、女性活躍、生産性、収益性改善、ワークライフスタイル改善というような部門をつくり、

チーム、組織を横断した形で定期的なミーティングを行いました。そこで出たアイデアがさまざまな形になり、従業員の意識も変化しているのではないかと考えております。

ここからICTについてのお話をします。皆さんにこの画面を見ていただいて、一緒に考えていただきたいのですが、弊社がITで問題を解決した事例を一つ、分かりやすいものがありますので、紹介したいと思います。これは、実際の弊社の事例なのですが、ここでクエスチョンと書きました。あなたの会社が二つの棟に分かれています。受付の女性はA棟にいますが、お客様からの電話はA棟で取って、必要に応じてB棟に内線するという仕組みになっています。B棟にはエンジニアの席が20人分ありますが、現場に出て不在の人が多います。A棟の受付は、どうやったらエンジニアの在籍、不在を把握して、お客様を待たせずにB棟に電話を回せるでしょうか。今までだと、電話を取ってB棟に内線を回して、電話に出なくて10秒以上待たせた挙げ句、お客様にすみませんと言うこともあり、これを解決したいという話になったのですが、皆さんはどのようにしますか。

ICTを導入する前、弊社ではこういうことをやっていました。A棟とB棟にホワイトボードを置きます。B棟のエンジニアが外出するときは、A棟の受付に電話をして、行き先と帰社時間を連絡します。受付はそれをA棟のホワイトボードに書き写して、その情報を共有し、B棟の人は、帰社後ホワイトボードを消して、帰社したことを内線で受付に伝えて、それをA棟のホワイトボードに反映させるということをやっていました。見て分かると思いますが、うまくいくと思うでしょうか。

実際うまくいっていませんでした。ちょっとした外出のたびに内線をかけるのも何かなというので連絡しないで出かけていったり、事務の人がホワイトボードに書き写すはずが、後でやっておこうと思って忘れてしまい、情報がきちんと伝わっておらず、共有できていないということがあったのです。

それぞれに話を聞くと、連絡しないエンジニアが悪いとか、電話してもホワイトボードに書き写していないとか、大人なのだから出かけるたびに毎回電話しなさいなど、文句を言い合って、お互いに相手が悪いという話を社内で行っていましたが、これは相手が悪いのではなく、仕組みが悪いのではないかと考えました。情報が2カ所に分かれていて、さらにその情報を伝言ゲームで伝えるというのがそもそも問題だと。情報のシングルインスタンスの原則と書きましたが、同一の情報を常に参照するようにしないとうまくいかないのではないかと考えました。

そこで、ウェブカメラを買ってきて、B棟のホワイトボードを常に映そうと考えました。そうすれば、エンジニアの人が外出するとき、それから帰ってきたときにホワイトボードに書いたり消したりするだけで、その情報をA棟のほうで共有できるため、これで解決すると思いましたが、しかし、市販品を買ってきましたが、実際にはうまくいきませんでした。ネットで調べて買って置いたのですが、そのとおりに動かなかったのです。メーカーに電話したら、「すみません。そこに書いてあることは間違っていました。返品してください」と言われて、ではしようがないなど。

この頃、ラズベリーパイというミニコンピューターがはやっていて、カメラをつけられるので、思いつきで買って見て、これを使ってみようと思いました。ラズベリーパイの実物を二つお持ちしました。会社で使っているのは、大きいほうです。小さいほうは、フリスクというミントのお菓子のケースに入るサイズなのですが、これでも立派なコンピューターです。あと、こんなに小さいカメラモジュールもあります。

このミニコンピューターとカメラモジュールを、第2社屋と呼んでいるB棟に整備しました。ドアの横にホワイトボードがあり、その前にミニコンピューターを設置し、エンジニアの人は、出かけるときにホワイトボードに書いて、戻ってきたら消すということをやって、それを常にこのラズベリーパイというミニコンピューターが管理するというのを考えました。

これは実際の画面です。ここに小さい穴が空いているのですが、ここにカメラモジュールが入っていて、常に撮影しています。実際に写した写真がこちらです。結構きれいに見えるのです。これでもいいかと思ったのですが、せっかくのミニコンピューターですので、一工夫加えました。まずは、ウェブサーバーをインストールして、画像を配信するのですが、それだけではなく、斜めから撮影していますので、これを台形変形することで正面から撮影したように見せかけました。それから、撮影日時を画像に挿入して、自分が見ている画像が常に最新であることを確認できるようにしました。

これがその結果です。こうやって見ると、実際に正面から撮影しているように見えると思います。あと、ホワイトボード側も工夫しまして、自分の名前が書かれたマグネットをスライドするだけで、いるかどうかを分かるようにしました。

実際の画面をお見せします。今、携帯経由で社内につながっている状態なのですが、私の出張先が県議会となっているのが分かると思います。10時19分13秒、今20秒になりました。5秒に1回ぐらい撮影して、変形して配信するというのをやっております。

仕組みとしては非常に単純、簡単なのですが、お客様を待たせてしまうことがあったので、お客様に対する満足度もそうですし、社内でのコミュニケーションの難しさが、1個5,000円とか、小さいものは1,000円や500円で買えるミニコンピューターで解決できてしまったということです。社内的には画期的な課題解決になったと思っています。

なぜ、自分で開発したのかというと、世の中にそういうものがなかったから作ってしまったわけなのです。撮像、変形、配信を一つのコンピューターで担うというものがなかなかなかったので、これは使い物になるということで、特許を申請しております。認められるかどうかは、まだこれからですけども。こういった仕組みを使って、ICTで生産性も向上したということです。これを事例として御紹介させていただきました。

ICTとは、インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジーのことです。情報通信技術ということなのですが、得意なこととして、見える化、情報共有、それから遠隔化です。先ほど画面をお見せしましたが、遠隔でホワイトボードを見られますので、例えば私が家に帰ってから、会社にあの人がまだいるか確認したいときにホワイトボードを

遠隔で見たりします。真っ暗で映らないと、みんな帰ったのかとか、そういうのも分かるわけです。あとは、自動化、集約化、仮想化という言い方をしたりもしますし、最近だとデータサイエンスということで、学習と予測ができるようになってきています。

では、弊社ではどのようなことをやっているか紹介します。どんどんIT化を進めまして、原価サーバー、経理サーバー、見積りサーバー、拾いサーバー、土木積算、アクティブディレクトリーサーバー、共有フォルダ、バックアップサーバーがあります。図面を使うことが多いので、コンピューターは新しくして、図面を見るときには4Kディスプレイを配付し、それをデュアルでやるということもやっています。今まで紙に頼っていたことがどんどん画面上でできるようになってきていまして、紙の節約と時短ができるようになったことで、働き方改革も進んでいるという気がします。

また、岩館電気の本社と、宮古営業所、秋田営業所、現場事務所は、全部VPNというネットワークでつながっていますので、社内で提供しているサービスを出張先で使うこともできます。

では、私が入社してから何をしたかということ、もちろんITへの取り組みをやりましたが、一番最初にやったのは、オフィス環境の改善です。弊社は、いかにも昭和のような、イメージ図のような感じです。私の年とあまり変わらない、1974年製とか76年製のスチール机がずらっと並んでいて、たばこをぶかぶかふかしながら仕事をするというような状況でした。これを何とかしたいということで、まずは昭和のスチール机、椅子、机を全部破棄してオフィス環境を改善しました。床はLAN配線のためのフリーアクセスにして、椅子、ブラインドは緑を基調にして置き換えて、オフィスは禁煙としました。

なぜオフィス環境の改善をやったかということ、社員が長く触れるもの、毎日使っているものから手をつけると分かりやすいと思ったからです。一回改善ができると、私が来てからオフィスがきれいになったということで、社員からの評判がよかったです。

その次に、IT環境の改善をしました。パソコンの置き換えは、それなりにお金がかかると言われればそうなのですが、例えば速いパソコンに置き換えることで、1日15分仕事が短い時間でできるようになったらどうなるかということを経算すると、8時間労働で換算すると、年間約8日間時間を節約できることになるのです。8日間の人件費を考えると、あっという間に元が取れてしまうのです。投資効果で考えると、1日15分の改善はすごいことなのです。

ただ、古くからいる社員もいますので、社長の息子だからといって、勝手なことをしているとされるのも嫌なので、ハードディスクをSSDに置き換えていって、速度を上げていくということをやりました。パソコンの中のハードディスクをSSDに置き換えると、パソコンのソフトが速くなりますが、これは1万円もしなかったもので、どんどん進めました。

あとは、図面がディスプレイに映り切らず、印刷しなければならないため、ディスプレイのデュアル化、大型化で効率アップに取り組みました。私が岩館電気に入社して驚いた

ことの一つに、建設業では拾い作業というものがあり、図面を印刷して、左手にカウンターを持って、右手に色鉛筆を持って、照明器具の数を1、2、3、4、5、6、7、8、9、10と数えていたり、棒の先にくところがついているもので、図面の上をころころと転がして、30メートルと計測しているということがありました。こんなにアナログな仕事でいいのかと思っていたのですが、実際紙に印刷して驚いたのが、紙の持つ情報量は物すごく多いということです。ですので、今までのディスプレイでは対応できないということで、4Kディスプレイを導入しました。4Kディスプレイが1台4万円まで下がっていた時期なので、それだったらやったほうがいいということで進めたのですが、何せ毎日使うものなので、社員の評判はすごくよかったですし、今まで紙に印刷してころころやっていたのが、画面上でかちかちやるだけで数も数えられる、長さも測れる、そしてそれがそのまま見積りサーバーにデータが入るので、すごく仕事の効率が上がりました。

さらには、見積りサーバーを導入して、そこで図面を参照できるようになると、みんなで手分けして仕事ができるようになるのです。そして、チェックも楽になり、仕事の精度が上がったと思います。

それから、電話会議用に全員にスカイプアカウントをセットアップしました。これは遠隔で通話できるソフトで、ズームのようなものです。これをセットアップして、ウェブカメラとヘッドセットを社員全員に支給しました。これで若い人は、特に現場の困り事などをベテランに相談したりしているようです。

働く環境の向上というのは、やはり社員の幸福へそもそも貢献するのではないかというふうに感じております。

ほかに初期に行ったのは共有フォルダの導入です。誰かがやった仕事を、その個人のパソコンの中にしまわず、必ず全員が見られるところに置いておくことによって、誰か別の人が過去の人はどういう仕事をしていたのか参照できることとなります。そうすると同じものを苦勞して作り直さなくてもいいので、過去の人がやったことを、言い方は悪いですが、コピーしてきて、今回用に新しく少し手直しして提出すればいいということができるようになりました。学生は、レポートをコピーするなど言われたような、コピーはだめだとなっているかもしれませんが、ITの世界で「ドント・リピート・ユアセルフ」という言葉があります。同じことをやるなという意味です。1回やったものはそれを再利用しなさい、それが本当に効率のいいやり方なのだということです。

ただし、機密情報を社員にやたらと見られるのは困るので、例えば役員だけが見ることができるフォルダや、全員が見ることができるフォルダというのを作って整備していきました。

それから、そうやってデータを集約していくのはいいのですが、いざファイルサーバーが壊れてしまうとデータがなくなってしまうし、私は、会社のデータがなくなったときは会社がなくなるときだと思っていましたので、とにかくバックアップサーバーを作って、バックアップを毎日取っています。バックアップサーバーは60テラぐらいあるのです

が、買うと何百万、何千万円するのですが、自作すると 12 万円とか 15 万円で作れるので、このバックアップサーバーは自分で作って経費節減しました。

そして、とにかくデータ共有を行いました。複合機でスキャンされたものや、受信したファクスが共有フォルダへ入るようにしました。とにかく何でもスキャンして、共有フォルダに入れて情報共有するということをやっています。

それから、先ほどもお話ししましたが、遠隔です。VPNといい、バーチャル・プライベート・ネットワークと言われていて、これを導入をしております。各現場事務所、営業所から岩館電気本社のネットワークにアクセスが可能になっておりますので、ネットワークで各現場事務所や営業所につながっていて、遠隔でも仕事ができるようになっております。

あとは、ノートパソコンの貸し出しを行っていますが、そのノートパソコンが社内のネットワークにつながるようになっていきます。今はリモートワークがごく当たり前になってきていますが、弊社ではコロナの前からリモートワークを実現しておりました。例として、社内からソフトウェアVPN接続、社内仮想マシンで文章を作成し、遠隔でファクス送信とありますが、具体的に言いますと、夜にお風呂に入っているときに、銀行に連絡しなければいけないというのを思い出したので、お風呂上がりに自宅のコンピューターから社内に接続して、社内のコンピューターからファクスを岩館電気経由で銀行に送るということをやりました。

ここで、デモンストレーションをさせていただきます。普通のパソコンの画面に見えますが、社内の仮想マシンを呼び出して、社内のコンピューターを直接触っています。ここで例えば文章を打ちます。これを印刷から、ファクスを選ぶと電話番号が入れられ、電話番号を入れるとファクスが送れるのですが、社内を呼び出して、掲示板にそれを貼ってもらいます。うちの社員がこういうところに貼ってくれています。リモートでもファクスや印刷ができますというデモンストレーションでした。

では、続きをお話しさせていただきます。あとは原価管理のソフトウェアを導入し、全ての工事で誰でも原価が把握できるようになりました。さらに、原価管理サーバーのデータベースを参照し、誰がどれだけ仕事をしたか、残業したかというのも自動取得されます。これを毎日自動集計して、社員に公開しています。つまり誰がどれだけ残業しているかというのは、一目瞭然なのです。実際に画面を見ますと、例えば、先月これだけ残業している人がいることが分かるようになっています。これは社員全員に送っていますので、自分の残業時間だけが分かるのではなく、全ての人が共有しています。これがポイントです。これによって、誰が忙しいとか、誰が楽なのかとか、変なことを言うと、あまり仕事がないはずなのに何で残業しているのかとか、そういうのも感覚的に分かるわけです。

ほかには、よくあるとは思いますが、サイボウズのようなものを使って情報共有をしています。在庫管理システムは自分でプログラムを書いたのですが、QRコードを棚に貼って、物を持っていくときにQRコードを読み込ませて、何個持っていったか、何個戻した



かということをやって在庫管理するのです。これによって今在庫が何円分あるかというのがリアルタイムで分かりますので、社員の意識づけもできていると思っています。

ほかにもプログラマーを採用してIT化をさらに促進しました。今までは、紙でこういう見積りをしてくださいというのを社内で回していたのですが、それをオンライン化することで、こういう仕事がありますという見積り状況が一覧で見ることができるようになりました。会社全体でどれだけの仕事量をこなさなくてはいけないのかというのが分かるようになり、仕事の優先順位をつけやすくなったり、どのくらいの量があるからいつまでに終わらせなければいけないということが把握がしやすくなっています。

それから、原価サーバーから原価、利益率の一覧を作成しました。今までも個別の検証はしていて、見積りより安くできてよかったという話はしていたのですが、全体的に見積りに癖があるというような話が、一覧にすることで分かってきました。それによって見積りの精度をさらに上げられるのではないかという話をしています。そうすると、当然お客様にも喜んでもらえる価格が提供できることになるので、これは本当にやってよかったと思っています。

さらなる見える化の挑戦ということで、実は見積りを作るサーバーと原価を管理するサーバーは別々になっています。別々になっているとそのままでは比較ができないのですが、二つのデータを一つのデータベースに入れて、この上で分析するというのもやっています。これによって、見積りの精度を上げられないか考えています。

ほかにもいろいろなことをやっていますが、秋田営業所にデータの複製を作成することもやっております。これは、本社が爆破されてもデータは残ると書きました。物騒なことを言っていると思うかもしれませんが、ディザスタリカバリという概念は、実はワールドトレードセンターに飛行機が突っ込んで、それでデータが消えてしまったので、データがなくなったから企業も消えたというのがあったのです。そういうことにならないように、バックアップも取っていますが、きちんとした複製を遠隔地にも作るということをやっています。

あとは、会議資料や議事録は大型ディスプレイに映しています。ドン・キホーテで一番大きい59インチの4Kディスプレイがたかだか6万円なので、それを買ってきて、そこに資料を映しながら、議事録を作りながら会議をするということをやっています。会議が終わった瞬間に議事録ができていて、しかも出席した人全員で議事録を確認しながら進められるので、間違いがなく、時短で仕事ができるということです。

なぜこんなに見える化にこだわっているかというと、私の経験や感じていたことで、情報は多くの人目にさらされることで洗練されると思っています。ですので、可能な限り誰でも情報にアクセスできるようにしたいというのが私の経営の信念です。参考までに二つ、「丸見え経営」と、「自然経営」という例を挙げさせていただきました。興味があれば、読んでみていただければと思います。

弊社では、そのような信念に従って携帯料金を全ての社員に公開しています。誰が幾ら

使っているかも分かりますので、無駄遣いの抑止力になると思っています。ほかに電気代も公開しています。水道代はやっていませんが、コピー代は見える化に取り組み中です。

そして、会議の議事録も、センシティブなものは除いて全社員に公開しています。会議資料はPDFで提出してもらい、ディスプレイに映しながらペーパーレスで会議をして、会議が終わったら、その議事録と提出していただいた資料を一つに結合して全社員にメールしています。

あとは、スケジュールは全社員で共有しています。これは、やっている会社が多いと思いますが、私のスケジュールは、私の妻も見られるようになっていきますので、誰と飲んでいるか、出張のときにどこのホテルに泊まっているかなど全部分かるのです。情報公開することで、私に変なことができないように自分でやっています。

ほかには、岩館電気に来たお知らせも全部スキャンしてメールして共有フォルダに保存していますので、後である会社の名前が変わったとか、社長が交代になったというのを検索できるようになっています。

私が社長になったのは2019年7月1日なのですが、そのときに重点目標を作成しました。社是の位置づけになるのですが、その中の一つに社内の情報が見える化し、衆知というのは皆さんの意見を集めて経営するということを書いております。これがすごく大事なことでないかと思っております。

「情報がなくて文句が出る。情報があれば意見が出る。」と書きました。やはり会社の状態を正しく知ってもらえれば、建設的な意見、全体を見た意見が出るのではないかと思いますので、情報公開は必要だと思っています。

ということで、ここまでで前半になります。ICTは経営マターということで、業務改善は見える化と相性がいい、見える化はICTと相性がいいということが大きいメッセージになると思います。

ここまでは先日の働き方改革で講演させていただいた内容になりますが、今回の公演時間を1時間いただきましたので、私がふだん考えていることを少し付け加えさせていただきたいと思います。議員の皆様は、既に御存じだと思いますので、私が申し上げるのも大変恐縮なのですが、日本は生産性が低いということが話題になりますので、改めて挙げさせていただきます。就業者1人当たりの労働生産性の国際比較ということで、日本は21位という低さになっております。世界競争力は31位です。

あと、気にかかっているのが、科学論文の世界順位がどんどん落ちているということです。論文の数だけで言えば世界で5番目なのですが、質でいうと世界10番目まで落ちているのだそうです。ということは、若い人からすると日本というのは生産性も低いし、科学技術力もない国、落ちている国なのだという認識を持っているということだと思います。

あと、個人的な経験をお話ししますが、前の会社はグローバルカンパニーだったので、ドイツやシンガポールで会議があり出張に行きます。そこで皆さんが1カ所に集まっているいろいろな議論をがんがやるのですが、やはり当然のように英語を話していて、私も話せ

ないわけではないですが、日本人が入っていけるレベルではないのです。その会議に出席してひしひしと感じたのが、日本は失われた何年と言っているけれども、本当に世界に遅れた国なのだということを肌で感じ、ショックでした。

それから、もう一つ言いますと、岩館電気に入って、会社を動かすためのソフトウェアも必要だったわけですが、寄せ集めで買ってこななければいけないというのがショックでした。前の会社はソフトウェアカンパニーで、ビジネスソフト世界1位のところだったので、当たり前のようにいろいろなものがソフトウェアで動いていたのですが、中小企業はそもそもそうではないと。1個買ってきても、1カ所だけ改善され、全体が改善されないため、これは厳しいと思いました。中小企業向けのオールインワンパッケージが存在しない。そもそも非効率経営を強いられるというのが、これも肌で感じて、厳しいと思っています。

ただ、中小企業のデジタル化と情報資産の活用に関するアンケートというのを経済産業省中小企業庁がやっています、データが使える状態で会社に保存されていますかというアンケートがいっぱい来ていました。恐らく、政府はデータサイエンスまで中小企業にやらせたいのではないかと感じています。これは衝撃的なアンケートです。そこまで考えているのだと思いました。

テクノロジーの話をしませんが、皆さんはデータベースがどのように作られているかは御存じですか。この後お財布に入っているレシートを1枚取り出していただいて、このレシートがどのようにしてデータ構成されているのかというのを想像していただくと面白いのではないかと思います。

例えば私がどこかに営業行きましたというときに、齊藤建設の渡辺さんに会ったという記録をエクセルに入れておいても、使えなくはないのですが、後で分析するにはうまくいかないのです。サイトウという字もいっぱいありますし、ワタナベという字もいっぱいありますし、これらをデータベースに作っていくときには、エクセルでいうシートみたいなものを分けていって、それをつなげていかななくてはいけないのです。下の表がつけた結果なのですが、会社番号1、担当番号1、日付、内容、これを結合すると齊藤建設の渡辺さんに1月13日、新製品を紹介したというデータベースになります。これがデータベースの考え方です。この考え方はとても大事なので、ITの概念を理解するときに、初心者向けのデータベースの薄い本を1冊読むと、中身がこうなっているのだということで理解が進むと思いますので、ぜひお薦めしたいと思います。

あとは、企業活動が記録されたデータベースへのアクセスとありますが、ビジネスインテリジェンスやデータサイエンスのためには、企業、行政活動のデータベースが一つであるといいのではないかと思います。せめてデータベースへのアクセス権が欲しいが、疎結合でもないよりはいい。要するにせつかく日々の活動が記録されたデータがあるのであれば、そこを直接参照してデータサイエンスできる形にしたいということです。

見積りデータベースと原価管理データベースがありますが、これを一旦分析用のデータベースに入れてからでないとは分析できないのです。これが厳しいところで、本当は全部入

りのデータベースがあって、そこに会社の全ての活動内容が記録されていれば、データを一つにまとめるということをやらなくても済んだのですが、中小企業がデータサイエンスするためには、そもそもこういうことをやらなくてはいけない。これは、すごく非効率だと感じます。

あと、皆さん読まれた方も多と思うのですが、デービッド・アトキンソンの「新・所得倍増論」を読んで私も衝撃を受けたのですが、そもそも日本は生産性が低いという問題提起をした本で、現状の中小企業は120万社が後継者不在なのだそうです。今やM&Aがすごくはやっているわけですが、これからM&Aは物すごい勢いで進んでいくと思います。120万社が後継者不在で、みんな会社を売りがっている。かつM&A費用の7割が損金計上可能なのだそうです。ただ、5年後から5年間益金として戻さなければいけないので、7割丸々損金計上ではないのですが、かなりやりやすい環境になってきていると思うのです。

ですので、これからすごい勢いでM&Aが進むと思うのですが、その際に基幹業務ソフトウェアの統合がスムーズにできるかどうかというのが鍵になってくると思います。会社は一つになっているけれども、データが一つになっていないということになれば、非効率な運営が残ったままになるのです。デジタルレディーの会社がデジタルノットレディーの会社を統合していくのだらうと思っています。

この基幹業務ソフトウェアの統合がスムーズにできるかというお話をしますが、みずほ銀行はトラブル続きです。あれは、統合した3行のシステムがそれぞれ残ったままずると引き継がれていって、誰も保守できなくて、もうだめだと言って4,000億円かけて一つのシステムに統合したのですが、それもまともに動いていないということです。ですので、システムを統合するというのは本当に大変なことですし、それが統合できるということは会社の生産性も上がるということなのです。

これは個人的な夢想です。データベースのテーブル構造や、権限設定のガイドラインを行政が策定し、それに基づいて各ベンダーがオールインワンパッケージを作成して、無償で中小企業に提供してくれないかという思いがあります。これが実現されれば、中小企業のDXや、その後のM&Aというのがすごい勢いで、しかもスムーズに進むのではないかと考えています。

余談ですが、先日階猛さんが弊社にふらっと寄りまして、雑談していったのですが、この話をしたら、それはと言うので、何か感じるどころがあったのかもしれませんが、このページの写真を撮っていかれました。

現状では、ヒト・モノ・カネの流れというのがどんどん増えているのですが、比較の対象が少しばらばらなので、単純には比較できないのですが、2005年から2014年の間に、国を越えたデータの動きが45倍にまで増加しているのだそうです。今は2022年で、動画データもありますので、さらに大きくなっていると思うのです。ヒト・モノ・カネというのが企業の3大要素と言われていましたが、これに加えてデータというのが企業活動に必

要なものになってくると感じています。

変化のスピードも加速しています。5,000万人が使うまでのプロダクトの普及速度です。飛行機は68年かかったのだそうです。テレビが22年、ツイッターが2年、ポケモンが19日。ポケモンGOが出たときに、私もインストールしてやってみましたけれども、19日間で5,000万人がダウンロードして使っているのです。すごいことだと思います。やはりITは場所も越える、それからとにかくデータだけの世界ですので、あらゆるものを超えて加速的になっていくわけですが、全ての場面で、アジャイルといいますけれども、素早さ、機敏さというものが必要になってくると思います。

私も会社経営をしていて思うのですが、本当に変化が予測できない時代になったと思います。よくPDCAといいます。PDCAでやっているというので、今はOODAという考え方のほうが現実的だという話があるのだそうです。それから、アジャイルが求められる時代。IT化も取りあえずつくってみるということが大事なのではないかと思っています。

先ほど、ラズベリーパイをお見せしましたが、こういうものを作ろうと最初から決めてやったわけではなく、取りあえずラズベリーパイを買って写真撮影をしてみようと思いました。どうやったら写真撮影ができるか分からなければ、まずはやってみる。それから、せっかく撮れたのだから、画像変形もやってみようとか、自分がここまでできるようになったから、誰でも設定変更できるようにその画面を作って社員に使わせようとか。失敗とか成功をPDCA、OODAを回しながら変化させていき使いやすいものにしたという現実があるのです。こういうことをやっていかなくてはいけないと思っています。

国家を超えるデジタルプラットフォームですが、衝撃的な内容となっていて、中国の人口が14億人、インドの人口が13億人ですが、フェイスブックのユーザーはそれよりも多い29億人、ユーチューブは22億人、ワッツアップというのはあまり日本で普及していないのですけれども、ラインみたいなもので、20億人あるのだそうです。

フェイスブックが数年前にリブラという仮想通貨を発行しようとして、一瞬でアメリカ政府に潰されました。恐らくアメリカはドルを守るためであれば、基軸通貨であることを守るためには戦争でも何でもやる国ですので、これはまずいと思ったのではないかと思います。今フェイスブックに対するネガティブキャンペーンがすごいですが、私の感覚的に、もしかして政府主導でフェイスブックを潰そうとしているのではないかぐらいに思っています。

それから、デジタルとアナログがどんどん融合していくということで、これはドイツの例ですが、レーザースキャンで都市全体を仮想化して市民参加の都市計画を実現しているということをやっているのだそうです。眼鏡やディスプレイに映したりして、都市をこういうふうに変えると、こういうふうに変わるという仮想空間をつくっている例です。

さらには、服の作り方すら変わっているのだそうです。普通であれば、何回も試作して1カ月以上の時間をかけてデザインしていた服が、全部コンピューター上でできるという

ことです。試作はせいぜい1回か2回で、数日で洋服が作れてしまうのです。CLOというソフトウェアで、画面上で服のドレープなどがすぐにできてしまって、しかも型紙もリアルタイムで生成されるということで、すごい時代だと思います。

ほかにも、ローカルモーターズという会社は、通常であればトヨタのようなメガファクトリーみたいなものがあるのですが、今は逆でマイクロファクトリーという考え方があり、3Dプリンターでシャトルバスを造って、現地で走らせるということをしているのです。造って輸出するのではなく、現地に小さい工場を造って、そこで車を生産するというをやっているのだそうです。

コンピューターも脳内のニューロンが300億個あるのですが、アップルのノートパソコンを1台買ってくると、MIというチップの中に570億個のトランジスタが含まれているのだそうです。今まで脳でできたことが、今はどんどんコンピューターでできるようになってきています。これはシンギュラリティという話がありますが、現実的になってきていると思います。何を意味しているかという、AIやデータサイエンスが当たり前の会社と、そうでない会社、社会との格差が開いていくのだろうと予想しています。

それから、ドローンと自動運転です。御存じのとおり、トヨタは生き残りのためにウーブンシティというまちを1個丸々建設して、そこで自動運転をはじめとするさまざまなことをやっています。岩手県内でも県立大学の内部、あるいは県立大学と滝沢駅の間でシャトルバスを走らせ、近くにスマートポールというローカル5Gのようなポールを立て、情報収集をするということをやろうとしているのだそうです。ぜひこういう取り組みが出たときに、自動運転はまだ危ないというようなことを言うのではなく、区間を限定してでもいいので、皆さんが後押ししてそうしたものを進めていただければと感じます。

あとは、教育をやられている方もいらっしゃると思うので、御紹介させていただきます。「学力」の経済学」という非常に話題になった本があります。これは、どういうコストをかけると学力を上げることができるかということを経済学的に著した本なのですが、結構衝撃的でした。こうすればいいみたいなことをデータでちゃんと裏づけをして、こういうところに教育のお金をかけなさいということが出ているのです。画像を検索するとき右側に参照本が出ていたので、掲載させていただきましたが、「ここが変だよ「学力の経済学」」という右側の本は読んでおりません。ただ、左側の「「学力」の経済学」は、読みましたが、非常にいい本だと思います。

ミレニアル世代、Z世代というのがありますが、デジタルネイティブの世代が労働生産人口の半分になるのが2025年なのだそうです。もうすぐデジタル世代が中心になるということで、この頃には、社会というのは大きく変わっていなければいけないということです。採用していても、そのときまでにデジタルネイティブになっていないと社員が辞めたり、選んでもらえなくなるということだと思っております。亀井静香さんがデジタルなんてみたいなことを話して、袋だたきになっておりましたが、プログラミングを小学校のときにやったような世代がこれからどんどん出てきますので、我々がデジタルレディーにな

っていないと選ばれなくなってしまう。例えばシンガポールに移住してしまったりということだっただんどん起きていますので、厳しい時代になるのではないかと感じています。

それに応じるかのように、組織も変わってきています。ティール組織です。今までは軍隊のような会社でよかったのですが、そうではなくなってきました。個人の多様性を尊重するような会社になってきていて、ティールというのが考えられている究極の形であるとは思いますが、果たしてここまで大きい組織がティール組織と言われるようなところまで行けるのかどうか、正直私も分かりません。分からないですが、恐らくそういう方向に行っているのではないかと考えております。

今日世界に存在する問題は、それが作られたときと同じ意識レベルでは解決できないとアインシュタインが有名な言葉を残しました。我々自身が意識を変えていって、組織なり自分自身の知識、考え方というのをアップデートしていかないと、恐らく生き残っていけないのではないかと考えております。

最後に、アラン・ケイという有名なコンピューターのエンジニアがおりますが、将来を予測する最高の方法は、それを発明してしまうことだという言葉を残しています。こういうふうに言うと、イノベーションしなければみたいに思うかもしれませんが、岩館電気も電気工事という古いものをとにかく少しでもよくしなければいけないということで取り組んできたわけで、そこに特別なことを何かやったということではないと思っています。

ですけれども、自分自身の意識をアップデートしていって、変えていかないといけないと思います。それによって、未来をつくっていくことができるのではないかと考えておりますので、この言葉を最後に書かせていただきました。

私からは以上になります。何か御参考になれば幸いです。ありがとうございました。

○ハクセル美穂子委員長 平野様、大変貴重なお話ありがとうございました。

それでは、これより質疑、意見交換を行いたいと思います。ただいまお話しいただきましたことに関しまして質疑、御意見等ありましたら、挙手でお願いをいたします。

○高橋但馬委員 まず、いろいろと御説明ありがとうございました。私が建設会社に勤めていた時代は、ちょうど電子納品のはしりのときで、実際に自分が持った現場の電子納品を作って、それと同時に紙ベースのデータも一緒に役所に提出して、役所の職員が紙ベースのデータを見ながら、工事を査定するというものでした。平野さんが社長になってITを導入したときに、会社の年齢層によって理解の仕方が違うと思うのですが、その辺を浸透させるためにどのような取り組みをしたのかお聞きしたいです。

○平野喜英参考人 まずこういうふうにしなければだめだということは絶対に言わないようにしようと思っていました。いろいろな会社が立ち直っていくきっかけとなる、会社が更生していく、そういうことを仕掛けていった人の本を読むと、まず現状を一旦全部受け入れるみたいなことが書いてあって、まずは今は今でいいという気持ちで取り組んだというのがあります。

その上で何をしなくてはいけないのか。例えばこういうやり方がありますよという提案はどんどんしました。原価サーバーを入れるときは、幾つか原価管理サーバーをピックアップして、それをみんなの前でプレゼンさせ、どの原価管理ソフトがいいかをみんなに選ばせるということをやっています。こういうふうにすると、私がこれがいいからこれにしろというようなことではなくて、みんなが選んだような気持ちになりますので、そうすることによって導入が自然と進んでいったと思っています。

あとは、これをやらなければとがつんとやると大体反発があって、私も失敗しているのですが、根回しというか、そこを上手にやるというのは苦労したところです。

○高橋但馬委員 やはりそこを浸透させるというのは、時間がかかってくるものだと思うのですが、逆に例えば私は子供がインターネットをつなげてゲームをしていて、そこを管理する親のほうがついていけなくて、管理しているつもりが、実は野放しになっているような状況があり、そこについても親として勉強していかないといけないのですか。

○平野喜英参考人 子供部屋をつくってそこで勉強させるのではなく、リビングで勉強させなさいということがよく言われていると思います。これは、親の目の届くところでやったほうが子供も勉強するし、親も見ることができますが、子供部屋に子供が入ってしまっ、1人になっても勉強の効率が決して上がるわけではないということなのだそうです。ですので、例えばアイパッドやコンピューターをリビングに置いて自室では使わないとか、そういう仕組みにすると、自然と親も学ばなくてはいけないですし、目も届きますし、そういうやり方はどうかと思いました。

○米内紘正委員 今日は御説明いただき、ありがとうございます。私も世代間のところでお聞きしようと思っていたのですが、先ほど高橋但馬委員とお話の中で回答をいただき、まず全てを受け入れるということでしたが、あまりに時代の変化のスピードが速過ぎて、今の10代、20代と30代でも差ができるぐらい時代の変化のスピードが速いのだと感じております。

データが重要性を持つ社会になってきて、いわゆるG A F Aと呼ばれる、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンが、いろいろな情報プラットフォームから、情報を全部持って行ってしまっていて、国家いくつもの時価総額になっていますが、そのデータというところが日本はあまりにも遅れ過ぎていて、コロナ禍で少しだけ進んだところがありますが、それでも給付金の問題にしても、そこをさぼっていた、遅れていたことが露呈してしまったわけです。

ただ、このデータ化や情報管理という問題になると絶対に出てくるのが、プライバシーの問題です。しかし、そんなことを言っていたら物事は全く前に進めない。プライバシーがどうのこうのと言っている方に限って、意外とネットショッピングをたくさんしていたり、スマートフォンでどんどん自分の個人情報を入力してしまったりするのです。個人情報といったら、県庁舎でも誰かが入ってきて紙を持って行ってしまったりとか、どうしても絶対はないわけで、いろいろなリスクはどこにでもあるのですが、そのリスクマネジメ



ントをどのようにお考えになっていて、どう進めていけばいいのでしょうか。

○平野喜英参考人 非常にいろいろな方が気にされるポイントなのではないかと思えます。

まず、中国の例を申し上げますと、今北京の中には、至るところにカメラがついているのだそうです。顔を登録した犯罪者がいれば、町なかのカメラのどれかに引っかかってすぐ捕まえられると。それから、どこかのお店でかばんを忘れましてと警察に駆け込むと、警察はそのカメラの情報から立ちどころにそのかばんがどこにあるかを見つけ出したのだそうです。これは、ある意味理想的な社会を中国はつくっているわけですが、プライバシーがあるかという点ではないのです。これは、我々がどういう未来を選択しなければいけないかということなので、まさに政治の問題だと思うのですが、何をもってユートピアとするか、何をもってディストピアとするかということだと思います。

ヨーロッパも、人権を侵害しないような形でAIを使わなければいけないという話をしているのだと思いますが、では日本がどういう未来を選択するかというのは、私はやはり今の時代日本に閉塞感を感じているので、もう少し進めていただきたいと思っていますが、それが難しい問題だと思います。何をもって正解とするかというのは、難しいところだと思うのですが、情報公開についてお話しさせていただくと、個人情報はもちろん除きますが、なるべくデータというのは公開したほうが良いと思っています。見せてはいけないデータ以外はなるべく公開するという形にしたほうが良いのではないかと思います。というのは、先ほど申し上げたとおり、情報というものはなるべく多くの人にさらすことで、自然と洗練されていくと私は考えています。行政は、物すごい量のデータを持っているのではないかと思うのですが、それを今活用できるかということ、その情報にアクセスできる人しか活用できないと思うのです。これはすごくもったいないことで、この情報を公開すれば、もしかしたら全然関係ない人が想像もしたことのないような使い方をしてくれるかもしれない。そう考えると、可能な限り公開していくというのが一番いいやり方であろうと私は思っております。

国土地理院もそうだと思うのですが、いろいろなデータが公開されていて、それを研究者だけではなく、市井のプログラマーが使っていろいろな分析をしています。こういうのを見ると、やはりデータ公開はすごく大事だと思います。議員の先生方も、例えば人口動態がどうなっているかというリアルなデータを確認しながらお話をされたほうが良いのではないかと思いますし、そういう機会がもっとできてくるといいのではないかと思います。

あと、ここの議事堂にWi-Fiがないというのは驚きました。どうやって会議をされているのかというような、実は驚いています。弊社は、一人一人がノートパソコンを持ってペーパーレスで、必要なときに必要な情報にアクセスしながら会議をしていますので、そういうふうになっていると未来は明るいのではないのでしょうか。

○米内紘正委員 議員にアイパッドは配られています、アイパッドに資料を格納しまし

たというファクスが事務所に届いていて、でも全てを受け入れるところから始めなければいけないと思いますけれども。

今出てきたデータサイエンスのところですが、私も会社勤めをしていた10年前に、データサイエンティストを会社の中で養成しようということがあって、そういう動きが出てきたところでした。ビジネスインテリジェンスや、ツールを中小、零細企業の方が利用していかなければいけないのですが、そのツールは高いのです。物すごいシステムの年間利用費だったり、いろいろなパッケージが出ていても、やはりどうしても高い。書いてありましたが、中小企業向けのオールインワンパッケージがなかなかなくて、あったとしてもどこかのベンダーが作っていて、ベンダーロックインがかかってしまって、いろいろな中小企業の中でみんな使っていくというのがないと、なかなか1社で投資できる額ではないと思うのです。今それがどういう動きになっているか、もし分かれば教えていただきたいと思います。

○平野喜英参考人 それは、まさに弊社が直面した問題です。私の夢のところに書きましたが、中小企業も、ベンダーも、政府も喜ばしい状態になるにはどうしたらいいかとずっと考えてたどり着いたのが、団体でオールインワンパッケージを作れるようなデータベース構造を作ってもらって、それを中小企業が無料なり、すごく安い値段で使える状態にしてもらい、政府がそこに補助を出すわけです。そうすれば、中小企業が多過ぎる、非効率な仕事をしなくてはいけない状態というのが政府からすると解消されるし、企業もこれからのM&Aの問題などもどんどん解消されていくと。3者がハッピーな状態が実はこれなのではと思っております。

少し話は戻りますが、ビジネスインテリジェンスの話をすると、無償のパッケージのようなものはあります。メタベースというビジネスインテリジェンスがオープンソースで一応あることはあります。ただ、これが誰でも使えるかということ、やはりそれも難しい問題だと思っています。

デービッド・アトキンソンの話になるのですが、中小企業の数がある程度取れんしていかないと、データ経営するだけの体力を個々の会社が持てないのではないかということは私も感じているところなので、それはまさに社会問題なのだろうと思います。

岩手は大きい会社が少ないので、これからM&Aなどが進んで、ある程度業界再編成のようなものが進んでいかないと、やはり効率が上がらないのではという少し悲観的な感想ですが、そういうふうに感じています。

○軽石義則委員 今日はありがとうございました。私も電気屋の一人なので、いろいろ勉強になりましたし、時代も大分進んできていると実感しました。

岩手のひかりというコマーシャルで、知らない人はいないぐらいに有名な企業を維持、継続していくというのは、非常に難しいことだと思っておりまして、こういう努力の積み重ねで経営を継続されているのだと思いますが、まさに現場あつての会社ではないかと思っています。

現場には、やはり人材が必要で、まさに機械では置き換えができない仕事だと思っています。安全管理と人材育成は、見えない経費として多くの経費がかかっていると思っておりますが、その部分をどのようにお考えになっているのか。

加えて、人材を確保するためにいろいろ努力されていると思うのですが、現場に出て仕事をする方をつくっていくというのは、企業にも魅力がなければならぬし、もっと言えば仕事そのものに価値を見いだしていなければならぬと思うのですが、そういうところを従業員の皆さんにどういうふうに伝えているのか。先ほど社員の幸せがまずは企業の安定につながるというのは、まさにそのとおりで思うのですが、これまでは現場で仕事をして、会社に戻って書類作成をしなければならぬというのをICTを生かすことによって、その分違う業務、技術革新に振り向けることもできると思うのですが、その点どうなのでしょう。

○平野喜英参考人 ありがとうございます。まず、教育関係のお話について、以前、岩手ホテルアンドリゾートにいらっしゃって数年前に亡くなられた高塚猛さんが、見てあげるのが最大の教育だという言い方をされていて、すごく大事なことではないかと思っております。社長になって思った以上に忙しくなりましたが、なるべく現場に顔を出すようにして、社員がどういう顔をして働いているかをなるべく見るようにしています。そこで何か困ったことがないかとか、どんな感じだとか、そのような話をしています。それによって、現場の人は、社長が自分たちのことを考えてくれているという意識を持っていたいっているかはわからないですが、そのように言ってくれる社員もいます。

安全というのは、まさにおっしゃったとおりで、ここまでやればいいというものではないのですが、ハインリッヒの法則があって、ヒヤリハットがあった裏には必ずその10倍、100倍の原因となるものがあるというのがありますので、絶対に基礎から外れないということは安全大会でも言っています。また、自分たち、そして自分の家族を大事にしたいと思っていますし、それを守るということは結局安全を守ることでありますので、その意識づけはしているつもりです。

人材確保という意味では、2通りあります。

一つ目は、テレビコマーシャルをやっていることもありますが、あれは私自身は採用のためのコストだと考えていました。やはり知名度のある会社のほうが人を採用しやすいというのがありますし、実際、弊社では、毎年1人、2人、3人、少しずつ採れています。自然減の分もありますが、構成比でいうと若い人のほうが多くなっています。そこは、テレビコマーシャルのおかげではないかと思っています。

もう一つは、建設業はどうしても離職率が高いところがあると思うのですが、弊社は離職率が低く感じています。私が会社に入った頃は、結構辞めている人がいました。では、何で辞めるのかと考えたときに、ここよりいいところがあると思って辞めていくわけなのです。ですので、いい会社にしようという気持ちでおります。

私が社長になったときに、重点目標、実際には社是ですけども、これを作ったのです

が、まず社員の成長と幸福を会社の一番の目標にしようと考えました。そして、これをどう実現するかということをやっているわけですが、こういう会社になりたいというだけではなく、同時にそういう会社にするためには私が何をしなければいけないのかというのを考えて、経営者としての約束として社員に話しています。年に1回行う安全大会の時に必ずこれを皆さんに約束し直しています。社員の幸せのために利他の心で経営に臨む。公私混同を行わない。どのような意見にも耳を傾け自らを律し会社を改善する。できていると言われると、まだまだできていないのしょうけれども、社員に約束することによって、自分自身がやらなければと思いますので、これは皆さんに必ず年に1回約束し直すということをやっております。こういう約束をしているということも、もしかしたら社員が会社に期待してくれていることの一つなのかもしれないと思っています。

○**軽石義則委員** まさに社長自らが実践されていると私も思っています。

働き方改革は、御社の内部で改善することはいろいろな形でできると思うのですが、現場を持つと、特に設備、電気工事は最終的な仕上げのところに入ってくる仕事なので、前が進まなければ、やろうとしても自らの努力ではできないところがあると思います。当然発注側の考え方も変えてもらわないと、働き方改革につながっていかないというのは現実だと思っているのですが、その点はどうお考えでしょうか。

○**平野喜英参考人** 非常に難しい問題だと思います。まさに我々の力だけではどうしようもないことというのが現場で起こるわけです。建設業は建築、設備、電気と大きく三つに分かれています。そのしわ寄せは大抵電気に来ますので、建築の担当者があまりいい人ではない人に当たってしまうと、電気工事の会社が苦しむということになるわけです。では、これを解決できるかという、簡単にはいかないと思いますし、現実問題として工期が近づいてくると残業が増えるというのはそのとおりです。

ですけれども、一つ言えるのは、いろいろなことがリモートでできるようになっているというのと、ITを使って少しでも負担を減らすことをやっているということです。例えば図面はデータですので、このデータというのは別に現場事務所だけに置いておく必要がなくて、セキュリティの問題があるというのはそのとおりですが、例えば図面を書くのに、現場事務所だけではなく、本社の手の空いている人間に手伝ってもらうとか、書類作りや写真整理も自分1人でやるのではなく、本社の手の空いている人に手伝ってもらう。もつと、別の現場事務所の人がリモートで手伝うということも実際にはあります。そういう意味では、仕事の平準化は、昔に比べればできていると思っています。

あとは、先ほども申し上げたとおり、誰がどれだけ残業しているかはリアルタイムで分かりますので、ここの現場が苦しいというのが数字で見えてきますし、実際数字が大きくなっていくと色が赤くなるようにしています。そうすると、何が起きているのかをマネジャーのほうから積極的に介入してもらって、問題があれば拾い上げるということをやっていますので、昔に比べれば繁忙期を乗り越えやすくなったということは言われました。そこは改善したと思います。ただ、まだまだと言われればそのとおりだと思いますので、建

築の方にも頑張っていたきたいと思います。

○ハクセル美穂子委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○ハクセル美穂子委員長 ほかにないようですので、本日の調査はこれをもって終了いたします。

平野様、今日は本当にありがとうございました。お忙しいところ、ICTと、働き方改革の取り組みの内容や成果など、分かりやすく丁寧にお話しいただき、誠にありがとうございました。

ICTや働き方といっても、まずは社員の幸せや働く方々の幸せ、成長をポイントとして持ってきているからこそ、成功していると感じましたし、数値化することでお互いに助け合うといった効果も生まれるという具体例を言っていたので、やはり中小企業向けのワンパッケージのものが本当にできればと私も思いますので、そういったところも私も勉強して、提言していけたらと思っております。

これからもテレビコマーシャルを見るたびに平野さんを思い出しながら、岩館電気様のこれからの発展と、さらに働き方改革が進み、県内の企業様を牽引してくださる会社にさらに成長されることを御祈念申し上げまして、今日のお礼の挨拶といたします。本日は誠にありがとうございました。

委員の皆様には、次回の委員会運営等について御相談がありますので、しばしお残りください。お願いいたします。

次に、4月に予定されております当委員会の調査事項についてであります。御意見等がありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○ハクセル美穂子委員長 特に御意見等がなければ、当職に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○ハクセル美穂子委員長 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

以上をもって本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。お疲れさまでした。